

2. 事業の概要と成果	
(1) 上位目標の達成度	<p>上位目標:ダダブ難民キャンプに住む難民の生活環境を改善する。 達成度:約135%(計画200世帯に対して実績269世帯に仮設住宅を提供) ダダブ難民キャンプに住む難民269世帯(1世帯平均4名)、計1,076人に仮設住宅を提供し、生活環境を改善した。</p>
(2) 事業内容	<p>2010年から2011年の干ばつ被災によって登録されたソマリア難民用に新設されたイフォ2難民キャンプにおいて、より脆弱な世帯(母子家庭、高齢者、障がい者等)を優先して選定し269戸の仮設住宅を建設した。</p> <p>なお、当初標準規格として採用が見込まれていた「改善型土ブロックシェルター」に代わり、屋根がトタン、枠組みは木材、壁はプラスチックシートである「簡易Tシェルター」が4月3日に標準規格モデルとして採用されたため、2014年4月7日付申請(同17日付承認)の事業変更申請のとおり、合意された標準規格である「簡易Tシェルター」モデルの仮設住宅を建設することとなった。この規格変更に伴い、事業は下記の手順の通りに実施された。</p> <p>(ア) 事業実施体制の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・当団体现地スタッフから、各現場監督へ仕事内容の指示、必要に応じトレーニングを実施。 <p>(イ) 裨益者の選定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・UNHCRの査定に基づき、裨益者リストの作成後、UNHCRフィールドスタッフ、当団体のプロジェクト・アシスタントを中心に家族構成等を再確認するため、裨益候補者の家庭訪問を行う。裨益者はより脆弱な世帯(母子家庭、高齢者、障がい者等)を優先して選定する。裨益者として選定された世帯主と当団体とで覚書を締結、必要な作業を依頼。 <p>(ウ) 仮設住宅建設用資材の調達・輸送・加工</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資材はケニア国内で調達し、イフォ2キャンプ内の当団体コンパウンドに輸送させる。 ・同コンパウンドにて、難民・ホストコミュニティの委託業者が木材等の加工を行う。 ・各仮設住宅建設場所まで、車両をレンタルして資材を輸送する。資材の積み降ろしには、難民・ホストコミュニティの住民を日雇いする。 <p>(エ) 仮設住宅建設</p> <p>難民・ホストコミュニティからなる1チーム5名の建設チームを作り、建設を進める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基礎工事(測量・柱となる支柱を設置するための掘削) ・支柱および屋根の土台となる組み合わせ済み木材等の設置

	<ul style="list-style-type: none"> ・屋根設置 ・ドア・窓の設置 ・壁になるプラスチックシートの設置 <p>建設工事監督、フォアマン（建設現場主任）が上記作業工程を監督。</p> <p>(オ) 譲渡・モニタリング 完成後、譲渡証明書に世帯主の署名を取り付けた上で、仮設住宅を引き渡す。プロジェクト・アシスタントを中心に、譲渡後、各仮設住宅を訪問しモニタリングを実施。</p>
(3) 達成された成果	<p>269世帯（計1,076人、1世帯平均4人）が仮設住宅で暮らせるようになり、スフィア・スタンダードで定義される最低限の生活空間が獲得された。</p> <p>【成果を測る指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・完成した仮設住宅の戸数：269戸 確認方法：事業期間中にモニタリングを行い確認した。 ・使用されている仮設住宅の割合：100% 確認方法：居住者が、譲渡証明書に署名した難民自身であることをモニタリングで確認した。
(4) 持続発展性	<p>難民の多くは資産を失っており、また、現在のソマリア国内情勢からすぐに帰還が開始できる状況が整うとは想定しにくいため、難民キャンプでの支援を継続することが求められている。本事業の実施にあたっては、難民および周辺のホストコミュニティに資材の調達や熟練工の仕事等を委託することで、現地での雇用を創出し彼らの収入向上にも貢献し、さらにホストコミュニティとの良好な関係を維持し、今後も難民キャンプでの支援活動を円滑に継続していくための理解促進に寄与したと言える。また、Tシェルターの譲渡後は世帯主である難民にTシェルターの維持・管理の責任を持たせることで、他人ではなく、自分の所有物は自分で管理するという自覚を持つことができるよう促し、建設した仮設住宅が裨益者自身の自助努力によって長期的に利用されるよう配慮している。</p>